

古第三紀神戸層群凝灰岩層の 層序学的・記載岩石学的研究

谷 保孝 (たに やすたか)
工学部 一般教育科 准教授

用途・応用分野：神戸層群凝灰岩地すべりの素因に関する
地質学的知見の提供、地学教育(地質分野)

■ 研究概要

神戸層群は3700万～3200万年前の地層で、多数の凝灰岩（火山灰などが堆積・固結した岩石）が挟在する。この凝灰岩層は鍵層としてだけでなく、供給源の火山活動に関する情報を有する可能性を持つほか、地すべりの素因になる場合もある。本研究の目的は、神戸層群凝灰岩層をより精密に区分するとともに記載岩石学的性質(鉱物組み合わせ・黒雲母化学組成)を明らかにし、より高精度な地質図を作成することである。

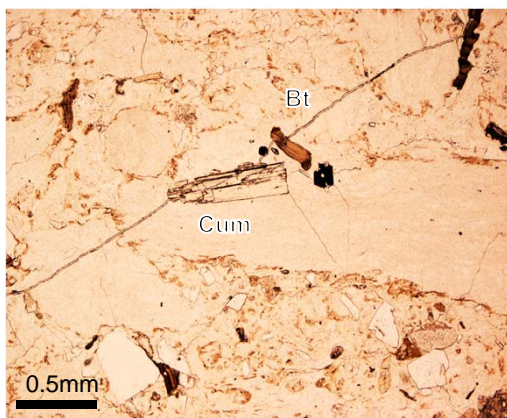


図1.神戸層群凝灰岩の鏡下写真例

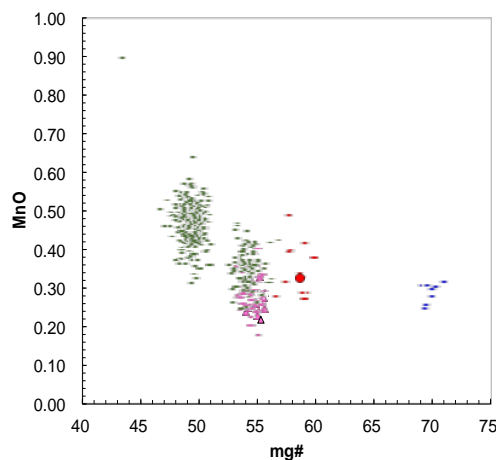


図2.
黒雲母化学
組成の検討例

■ 研究の特徴

神戸層群凝灰岩層は再堆積性凝灰岩が多いため凝灰岩に基盤岩類由来の結晶・岩片が混入する可能性もある。そのため、岩石記載では本質的性質を理解するために軽石斑晶鉱物に注目。

- ① より高精度に識別・対比した記載岩石学的性質の把握をめざす。
- ② 神戸層群凝灰岩層の斑晶鉱物の組み合わせや化学組成も検討する。

